

事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和 6 年 2 月 7 日

公表: 令和 6 年 2 月 16 日

事業所名 三芳町立みどり学園

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	0	・活動により部屋を変えるなど、構造化の手法を用いながら使用しています。	・利用定員とスペースの関係は適切であると考えています。
	2 職員の配置数は適切である	5	2	・1日の登園数に対して、安全な療育支援が行えるような職員配置を心がけています。	・職員の欠員は生じているが、在籍児童に対する配置基準は満たしております。今後もサービス提供に必要な職員配置を維持してまいります。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7	0	・特性に応じた視覚支援等の構造化を行っています。	・適切な環境であると考えますが、より使いやすくなるような工夫に努めていきます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7	0	・園児が降園した後に清掃と感染対策のための消毒を行っています。	・適切な環境であると考えますが、より清潔に、心地よく過ごせる環境づくりに努めていきます。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	0	・定例でケース会議を行い、各児童の課題達成度合い等について確認しています。	・児童発達支援計画を用いての園児支援等において、PDCAサイクル業務改善に努めていきます。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	0	・保護者の意見を真摯に受けとめ、支援に繋げていくように心がけている。	・事業評価の結果を踏まえながら、業務改善に努めていきます。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	0	・事業者向け自己評価表及び保護者向け評価表をホームページで公開しています。	・今後も継続していきます。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	3	・評価結果を業務改善につなげています。	・第三者評価を導入していないので、今後検討していきます。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	0	・ZOOM研修や講師による職員研修を実施している。	・今後も継続していきます。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7	0	個々に書面と口頭で「親子ニーズ」や「児の状況」の把握と「支援内容の確認」を行い、制作しております。	・今後も継続していきます。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	1	標準化されたツールの活用を含め、子どもの多様なニーズの総合的な把握を行っています	・アセスメントツールを含め、職員間での共有に努めていきます。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7		・保護者の意向も受けつつ、子どもの現状について共有し、達成可能な課題設定を行っている。	・今後も継続していきます。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7		・個々の支援計画に沿った支援を行っている。	・子どもと保護者のニーズに合った計画に沿って支援を行っていきます。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	7		・基本的には、提案が立案するがミーティングにおいてのブラッシュアップや修正を行っている。	・毎日のミーティングを活用しながら、継続していきます。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7		・個々の状態や特性を踏まえ、保育所との交流や季節の素材を活かした活動を計画している。	・カリキュラム調整を行い、活動が固定しないように努めていきます。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7		・子どもの特性に応じ各活動の配分、組み合わせ等検討し作成している	・子どもの特性に合わせて、児童発達支援計画を作成していきます。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7		・毎朝、支援内容や職員の担当や役割分担について確認をしている。	・今後も継続していきます。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7		・毎朝、始業開始に支援内容や子どもの状態、ヒヤリハット事例等について職員全員でミーティングを行っている。	・引き続き、職員で情報共有を図ります。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7		毎日、保育計画と個別日誌に記録を行い、職員間で共有しています。記録をもとにケース会議において特記事項は検証・改善に繋げております。	・今後も継続していきます。
20 定期的なモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7		・定例のケース会議にて、個々の状態や課題について確認し、必要に応じて修正している。	・今後も継続していきます。	

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7		・担当者会議として集まることはないが、電話等で個々の状況に合わせ、必要な情報交換を行っている。	・事業所間で担当者会議が持てるよう検討していきます。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7		・共同事業として「おやこ教室」を開催し、発達や子育てへの支援を行っている。また、必要に応じて連絡を行い、情報の共有を図っている。	・関係機関との連携を積極的に続けていきます。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7		・移行支援としての実績は少ないが、移行先への支援内容についての情報提供やアフターケアを必要に応じて行っている。	・充実した移行支援を行えるように積極的に情報提供をしていきます。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7		・教育委員会、特別支援学校とは、定期的に情報共有を行っている。	・関係機関との連携を積極的に続けていきます。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	1	・必要に応じ、助言を受け支援に取り入れるなど、連携を図っている。	・必要に応じて他の児童発達支援センターのどの専門機関と連携し、助言や研修を受けていきます。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	7		・併設された保育所と、個々の状態に合わせて、日常的な交流を図っている。	・町内の保育所・幼稚園においても計画をたてて交流する機会が持てるように努めていきます。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	7		・定例で、自立支援検討委員会・協議会に参加している。	・関係機関との連携を積極的に続けていきます。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		・日々の連絡帳、送迎時やバス停での伝えを行っている。必要に応じて面談を行い、随時状態や課題について共通理解を図っている。	・保護者との連絡を密にとり、共通理解が持てるよう、努めていきます。
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	6	1	・懇談会・保育報告会にて、意見交換や実践を通じた情報提供を行っている。	・保護者との連絡を密にとり、共通理解が持てるよう、努めていきます。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7		・入園児、年度初めに説明すると共に、変更・追記があった場合適宜説明しています。	・今後も継続していきます。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7		・面談の中で、個別支援計画をもとに説明を行い、同意・コメントをいただいている。	・今後も継続していきます。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7		・困りごとがありそうな場合は随時面談を行っている。また、保護者から要望があるときは、時間を作り面談をしている。	・今後も継続していきます。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7		・懇談会や親子遠足等、保護者同士が繋がれるよう支援しています。	・これからも、保護者が参加し繋がっていかれるような機会を作っていきます。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7		・誠実に迅速に検討し、対応している。	・今後も継続していきます。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7		・毎月2回の通信を発行し、情報提供を行っている。	・通信等の発行をし、予定や情報提供を行っています。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7		・個人情報の記載のあるものは全て鍵のかかる場所に収納している。	・個人情報の取り扱いには、十分注意して行きます。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7		・子どもの特性に応じ、視覚的配慮等を行い情報伝達と意思の疎通を行っている。	・個々の様子に合わせて、視覚的配慮等の配慮しながら、情報伝達や意思の疎通を図っていきます。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	2	・併設されている保育所と共に地域交流を行っている。	・今後も保育所と共に地域を含めた事業運営を行います。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7	・入園面接で契約時に概略を説明し、保護者と共有しています。職員は、定期的に訓練を行い対応の確認を行っている。	・防災マニュアルを作成し、毎月の避難訓練の中で災害・不審者等様々な場面を想定し訓練を行っています。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	・毎月、併設している保育所と共に必要な避難訓練を行っている。	・地震、火災等の災害発生に備え、定期的に避難訓練を実施していきます。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7	・入園面接での聞き取りや指示書等に基づき確認をしている。職員の周知を行っている。	・今後も継続していくとともに、必要に応じて保護者と状況の確認を行っています。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づき対応がされている	7	・食物アレルギーの有無については、入園児に保護者に確認をし、職員の周知を行っている。	・現在、食物アレルギーのお子さんは在園していませんが、該当するお子さんには、医師からの指示書に基づき管理栄養士が面談をし、代替食を提供しています。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	・ミーティング時に事例を共有し、記録に残している。	・ヒヤリハット報告書に記載し、日々のミーティングで職員間で共有することで今後の支援に生かしていきます。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	・職員で虐待防止研修を動画視聴し、確認チェックを実施しています。	・今後も研修を受講し、士気を高めていきます。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7	・本人や周囲に危険が及ぶ恐れがある場合などは行為を止めるが、事例の該当はない。	・身体拘束を行わない支援方法を提案し、現在実施はありません。必要な場合は身体拘束の廃止にかかる実施要領の基づき行っていきます。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。